

## 弥生の生活を体験！ 石に穴を開ける

青谷上寺地遺跡では、弥生時代最大級のヒスイ製勾玉（全長4.6センチ）が出土しています。

ヒスイは硬い石ですが、紐を通す穴をどのように開けたのでしょうか。硬い石に穴を開ける場合は、回転力を応用して石よりも軟らかい竹や鳥骨のように中が空洞の管錐を使用

## 弥生から時を超えて

### 青谷上寺地遺跡

います。ある本には、この方法でヒスイに穴を開けたところ7時間かかった、と書かれています。

そこで挑戦。勾玉づくりの体験でよく使われる滑石という軟らかい石に穴を開けてみました。厚さ1.2センチの滑石に、電気ドリルでは約5秒で穴が開きます。鉄製の錐を使って手もみすると約2分かかります。同じ鉄製の錐を弓キリ方式で火起こしの要領で回転させると約1分少しかかりま



青谷上寺地遺跡出土のヒスイ製勾玉（全長4.6cm、最大幅3.2cm、最大厚1.6cm）

した。最後に細い笹竹で管錐を作り、弓キリ方式で穴を開けると、約20分かかります。このことから、弥生時代の人々は、大変な苦勞をして穴を開けていたことがわかります。

### 勾玉づくりに挑戦してみませんか！

とき 10月21日（土）・22日（日）午前10時～  
ところ 青谷上寺地遺跡展示館（青谷町青谷）  
定員 各日50人（先着順）  
申込先 青谷上寺地遺跡展示館  
☎(0857)85-0841



弥生人のように、弓キリ方式で穴を開けると手間と時間がかかり、とても大変です。

## シリーズ vol.9 環境大学

環境政策学科 / 環境デザイン学科 / 情報システム学科  
http://www.kankyo-u.ac.jp/  
E-mail:nyushi@kankyo-u.ac.jp

■問い合わせ先  
入試広報課  
☎(0857)38-6720

TOPICS

### トピックス

### イートフ EATOF サマー・ユース・キャンプ in 江原道

7月3日～22日までの約20日間、EATOF（東アジア地方政府観光フォーラム）のサマー・ユース・キャンプが韓国江原道の江陵大学内で行われました。江原道内の大学生と、EATOF加盟の9カ国から大学生など2人ずつが集まり、本学からは、環境政策学科3年生の亀田絹子さんが参加し、若者同士で相互理解を深めました。キャンプでは、韓国語の授業や江原道内の観光、韓国の伝統的文化体験、また、ホームステイなど、色々な体験を通じ国境を越えて交流の輪を広げました。



前列右から3人目が亀田さん

PROJECT

### プロジェクト 研究紹介

### 「考古学写真ライブラリー」

情報システム学科4年生 藤川 靖史 さん

今、私が取り組んでいるプロジェクト研究（卒業研究）は、「考古学写真ライブラリー」です。これは、遺跡の発掘現場で撮影された記録写真を電子データで保存し、インターネット上で検索・閲覧できるシステムです。先輩から勧められ、考古学と情報システム、一見結びつかないこの2つの関係に興味を持ち研究のテーマに選びました。

発掘現場では、同じような写真を多く撮ります。その数も1つの現場で多いときは数万枚にもなります。写真データが整理されていないと、「メタデータ」と呼ばれる写真に関する情報の入力作業量が増えるうえ、検索する際もわかりにくくなります。

今、発掘現場で撮られた写真台帳をもとに、撮影の傾向を調べ、どうすれば「メタデータ」を的確に入力することができるか、データ入力の簡素化・効率化の可能性を実際に自分で試行錯誤しながら研究しています。

近い将来、このシステムが実用化され、開発者の1人として名前が残れば最高ですね。